

だからここに根を張る

「農業で まちの未来をつなぐ新規就農者たち」



中津川市は、中山間地域という地形的に不利な条件にありながら、古くから水稻を中心に、夏秋トマトや夏秋なす、栗、シクラメンなどの栽培が盛んで、県内外から高い評価を得ています。

畜産業においては、飛騨牛の主要産地でもあり、酪農、養鶏、養豚も安定した生産を行なっています。

一方、高齢化や後継者不足は一層深刻化し、今後の地域農業を担う人材の確保が喫緊の課題です。

その中で、新たに農業の世界へ飛び込んだ3人の新規就農者。

そんな彼らが共通して抱く思いは「農業で地域を元気に」。

問 農業振興課（☎内線238）



interview

地元への恩返し
や地域貢献を

えんどう たかゆき
遠藤 駿征さん

就農2年目、(株)東濃ファーム代表。独自で畜産農家から肥育について研修を受け、令和4年10月から上野地内で牛の肥育の独立自営を開始。

就農のきっかけ 肉用牛肥育農家さんと話をする機会があり、牛を飼うことに対する魅力に惹かれていきました。

就農してみても 生きもの相手の仕事なので、確実な正解がなく、苦勞しています。

目標 地元への恩返しや地域貢献ができる経営体制をとりたいと思っています。

農業に興味のある方へ
楽な仕事ではありませんが、やりがいを感じられますよ。



interview

家族とともに
地域の居場所へ



ひらまつ たいち
平松 太地さん

令和4、5年度に夏秋トマト研修制度を活用し2年の研修を経て、令和6年4月に地元坂下地内で独立自営を開始。

就農のきっかけ 農家の方から紹介してもらい、家族と働けることに魅力を感じました。

就農してみても 行政や農家の方々などの支援もあり、順調にやっています。強いて言えば早起きがつらいです。(笑)

目標 生産規模を広げ、地域の方が働く場の受け皿になりたいです。

農業に興味のある方へ
就農にあたり改めて農業という仕事の価値を感じました。この思いを共有できる仲間が増えたらうれしいです。



interview

試行錯誤の日々
だからおもしろい



にし お ゆうや
西尾 祐哉さん

夏秋トマト研修制度を活用し、令和2年4月に地元の阿木で夏秋トマトの独立自営を開始。今年度からは農福連携事業に取り組む。

就農のきっかけ 実家がトマト農家で、作業を手伝ううちに、仕事として携わりたいと思いました。

就農してみても 研修時との土壌の違いや毎年異なる気象条件など、日々試されています。

目標 栽培技術の向上と経営基盤の確立です。その上で、農福連携に取り組みたいと考えています。

農業に興味のある方へ

大変なことも多いですが、発見も多くあり、面白いです。短期の体験などもあるので、ぜひ一度試していただければと思います。



■ひがしみの夏秋トマト研修制度

トマトの生産技術や経営管理などについて、実習・講義を中心とした研修のほか、修了後は就農にあたるための支援を行なっています。(家庭菜園程度は不可)



対象 トマト生産に取り組むことを希望する満18歳以上で、東美濃夏秋トマト生産協議会に加入し、共同出荷に意欲的な方(書類選考あり)

受講料 無料

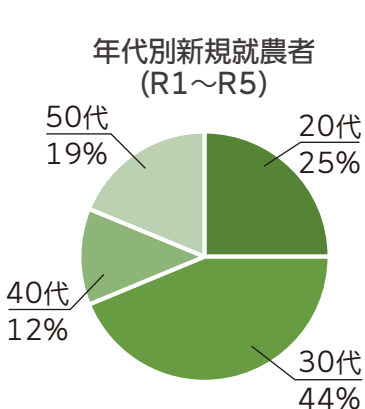
問・申込 JAひがしみの営農部 (☎78-0137)

■新規就農を目指す方へ



市では、新規就農を検討・希望する方の相談を随時受け付けているほか、各種研修制度や国、県、市それぞれの補助などの支援制度をご案内しています。お気軽にご相談ください。

問 農業振興課（☎内線238）



■直近5年間の新規就農者数
年平均3人、年代では20代、30代が約7割を占めています。作目別では、夏秋トマトが75%、肉用牛の肥育19%、露地野菜6%となっています。

■飛騨牛繁殖研修センター

岐阜県やJA全農岐阜、岐阜大学が連携し、大学職員による講義や、雌牛100頭規模の牛舎で実習を実施しています。

対象 県内で肉用牛繁殖雌牛を飼育する独立就農、または県内の肉用牛経営へ雇用就農を希望する満18歳以上の方

受講料 無料

問・申込 飛騨牛繁殖研修事業連携協議会 事務局(岐阜県農政部 畜産振興課) (☎058-272-1111 内線4138)

